

看護学研究科 看護学専攻 修士・博士課程

教育方法と教育の特色ある工夫

本学の各研究科・専攻は、それぞれの教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、専門領域ごとの特色を活かした教育方法による教育・研究を行っています。そしてその教育方法に特色ある工夫を重ね、教育・研究内容の向上に取り組んでいます。

【教育方法】

昨今の世界的な感染症の蔓延、多発する自然災害、急速な少子高齢化などは、医療・看護・保健活動の場においても種々様々な問題を私たちに突きつけています。これらの課題を、学際的な視点から探求・分析し解決に導くためには「高度な知識を基盤に新たな知見を創造する能力」が不可欠です。

本研究科では、「建学の精神(実学教育)」のもと、

修士課程では、

学際的な視野から現代社会における看護課題を自ら考究し、その成果を看護実践や看護教育・看護研究に生かせる高度専門職業人を育成します。

博士課程では、

自らが考究する研究課題を的確な臨床判断のもと深く掘り下げ、独創的で卓越した高度な研究能力と、幅広い視野と深い学識を基盤とした高度な看護実践者・看護教育者・看護研究者を育成します。

【教育の特色ある工夫】

- ・ 修士課程は、8つの看護領域（基礎看護学・成人看護学・老年看護学・小児看護学・精神看護学・母性看護学・在宅看護学・公衆衛生看護学）を設置し、学生が専攻する領域において「複雑化・高度化する看護課題を広い視点から探求し、多角的に分析することができる能力」を培うための専門科目（各領域の特論Ⅰ・Ⅱ、実践演習科目）を開講しています。また共通科目には、医師教員が担当する「フィジカルアセスメント特論」・「遺伝・感染学特論」・「病態生理学特論」を配置し、学生が学際的な視点から自身の研究課題を捉えられるよう工夫しています。
- ・ 博士課程は、3つの研究領域（基盤看護学・ケア実証看護学・地域包括看護学）を設置し、各領域にはそれぞれ専門性の高い2つの分野を配置しています（基盤看護学領域：看護教育・キャリア開発分野／看護倫理学分野）・（ケア実証看護学領域：成人・高齢者看護実践開発分野／小児看護実践開発分野）・（地域包括看護学領域：地域・在宅支援看護学分野／地域保健看護学分野）。各分野では、学生が「深い学識を基盤に、自ら実践的に研究課題を探求する能力」を修得できるよう、専門科目に「特講」・「演習」科目を用意しています。また、共通科目には、医師や薬剤師・理学療法士・作業療法士・

鍼灸師・精神保健福祉士／公認心理士教員が担当する「高度実践病態生理学特講」・「学際的看護ケア特講」を配置し、学生が研究課題を「的確な臨床判断のもと深く掘り下げ、幅広い視野から検討できる」よう工夫しています。

- ・ 修士・博士課程とも、研究の推進・論文の完成に向けては、ゼミ（研究科目：看護学特別研究）の他、集団ゼミ（他学年や他領域の院生との合同ゼミ、副指導教員による助言）の機会も提供し、学生が広い視点から自身の研究内容をリフレクションできるよう支援しています。また、研究計画書や論文中間発表会、学位論文最終発表会も広く公開し、他研究科の教員や院生からの助言も受けられるようにしています。
- ・ 修士・博士課程とも、講義やゼミは、オンライン授業も適宜導入し、遠距離通学者が時間を有効活用できるよう支援しています。